

立冬を過ぎて、肌寒い日が多くなってきました。今年も、あと一月あまり、月日が経つのをますます早く感じる季節です。

現在会員登録数 2,195 人さま。次号は 12 月 20 日発行の予定です／

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》読書活動ボランティアのためのワンポイント 75

《4》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

【1】お知らせ

● 岩手県図書館協会から感謝状をいただきました

平成 24 年度に実施しました「東日本大震災で被災した子どもに本を贈る『いっしょだよ』キャンペーン」（主催：当財団、大阪府書店商業組合、毎日新聞社、毎日新聞東京・大阪・西部社会事業団）の募金活動による児童図書への寄贈に対して、岩手県図書館協会（会長：工藤良裕 岩手県立図書館長 加盟：51 館）から図書館事業功労者として表彰いただきました。

当キャンペーンに協力いただきました多くの皆様に報告させていただきますとともに、関係の皆様にお礼申し上げます。

◇このことについて、11 月 11 日（金）毎日新聞朝刊（大阪版）に掲載いただきました。

● 土居理事が「国際アンデルセン賞」の国際選考委員に就任しました

当財団理事で日本国際児童図書評議会（JBBY）理事の土居安子さんが、国際児童図書評議会（IBBY：本部スイス）が行う 2018 年国際アンデルセン賞の選考委員に就任しました。

「国際アンデルセン賞」は、2 年に一度、子どもの本の世界に貢献した画家及び作家を対象に贈られる賞で、受賞者を決定する選考委員会は、ロシア、スペイン、エジプト、アルゼンチンなど世界各国の 10 人で構成されます。

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いします。

お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

【2】コラム

《1》この本読んだ？ Yasuko's & Takeo's Talk

『フラダン』 古内一絵/著 小峰書店 2016年9月

対象年齢：中学生以上

あらすじ：福島県立阿田工業高校2年の穰（ゆたか）は、水泳部をやめたとたん、詩織にフラダンス愛好会に誘われ、シンガポール帰りのキザで美男の転校生、宙彦（おきひこ）とともにフラダンスを始める。老人ホームの慰問では大歓迎を受けるが、仮設住宅がある公園で踊った時には、大人に利用されているだけだと批判される。それ以後、詩織は学校を休み、メンバーと被災した福島の関わりが明らかになっていく。

Y：震災5年後の福島を舞台にした部活ものです。

T：作者によって自覚的に選ばれたエンターテインメント性が、福島を描きながら「読ませる」作品になっていると思いました。輪郭のはっきりした（いわゆるキャラ立ちした）人物が描かれ、彼らの背景がトランプのカードが裏返るように次々と明らかになっていく展開に、まず、エンターテインメント性を感じます。

Y：父親が電力会社に勤めている生徒、仮設住宅にいた生徒など、直接地震に影響を受けたメンバーがいます。

T：その中に、家族は無事だったけれど飼っていた犬が死んでしまった少女が出てきて、人ではなく犬が死んだことを悲しむことに罪悪感を持つというエピソードがあって、とても納得して読みました。

Y：背景のみでなく、穰はフラダンス部に入るのか、最初は全く踊れなかった1年生の男子は踊れるようになるのか、穰とマヤの恋愛は？不登校になった詩織は学校へ来るのか、フラガールズ甲子園での結果は？など、疑問を解いていく展開が「読まされる」につながっています。

T：穰を強引に愛好会に勧誘し、やり手だと思っていた詩織が不登校になった時、詩織の家庭のようすや彼女の過去が明らかになるという手法もうまいと思いました。穰が水泳部をやめるきっかけになった松本という嫌味な男子生徒も一人の人間として描かれています。

Y：宙彦が英語ができないのに英単語をまき散らしてモテたり、ヤンキーの浜子が気の弱い1年生男子、健一とペアを組む様子など、ユーモラスで笑ってしまいました。そして、ややストレートすぎるかもしれませんが、「人間、お互いになんか考えてつか分かんねんだから、言葉ってもんがあんだよ。」と書かれているように、率直に自分の過去や気持ちを語り合うことによって友情が深まる様子が描かれている点が青春小説だなと思って読みました。

* 今回のゲストは当財団の宮川健郎理事長（T）です。

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

第15回「雪渡り」

十一歳 〈子ども〉と〈大人〉を分かちもの

山猫から〈おかしなはがき〉をもらい、喜んで山の中に出かけて行った一郎少年。前回メルマガ（NO.74 参照）の「どんぐりと山猫」は、いわば異世界から招待状が届いた話でした。

一方、幼い兄妹の四郎とかん子が小狐（子狐）に出会い、〈入場券〉という招待状をもらって幻燈会に誘われるのが本作「雪渡り」です。

雪渡りとは、〈道のない凍りついた雪原を歩いて行くこと〉（『定本 宮澤賢治語彙辞典』）。それができるのは、〈雪がすっかり凍って大理石よりも堅くなり〉〈いつもは歩けない黍の畑の中でも、すすきで一杯だった野原の上でも、すきな方へどこ迄でも行ける〉特別な日です。

その非日常の時空、つまり異界と地続きになった満月の夜、森の中から白い狐（紺三郎）が登場、四郎とかん子に入場券を渡します。そこには〈学校生徒の父兄にあらずして十二歳以上の来賓は入場をお断わり申し候〉との記載がありました。幻燈会は、狐の学校のイベントで、来賓は十一歳までの子どもしか参加できない対象者限定のものだったのです。

幻燈会への参加資格について、十一歳で明確に線を引いた賢治。〈純真な心意の所有者たち〉（童話集『注文の多い料理店』 広告ちらし）に対して〈卑怯な成人たち〉（同）とも記述する賢治の子ども観・成人観は、本作においては（人をだますという）狐であれ人間であれ、異なる者にも共通する一つの絶対的な基準として提示されます。

なお、新潮文庫『注文の多い料理店』の注解（天沢退二郎）では、作中で歌われる〈堅雪かんこ、凍み雪しんこ〉は岩手の伝承童謡であり、岩波文庫『わらべうた』に〈堅雪渡り〉〔青森〕が掲載されていることにふれています。（ペ吉）

（本文の引用は、新潮文庫版『注文の多い料理店』によりました。）

《3》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 75

その10 学校でのおはなし会（7）長い休み時間、昼休み、放課後の場合

朝の10分間読書の時間や授業時間は、子どもが強制的におはなし会に参加することになるため、ボランティアグループの中には、子どもが自由かつ自主的に参加できる時間におはなし会を設定されることもあります。

その中には2時間目と3時間目の間の長い休み時間や昼休みに学校図書館で行うグループもあります。しかしながら、長いといえども10分～15分しかない休み時間で、人の出入りが多く、じっくりお話を楽しむという状況になかなかないことが多いようです。年齢も1年生から6年生までいるため、プログラムも難しくなります。空間やプログラムをかなり工夫して行うことが必要です。

一方、放課後は時間に余裕があります。ただ、習い事や塾など、昨今の子どもは忙しいため、残りたくても残れない子どもがいることも確かです。放課後のおはなし会が学校の中で定期的に行われ、定着していれば、楽しみに参加する子どもがいますし、学童保育が同じ敷地内にあったり、放課後に自由に残れるプログラムがあったりすれば、参加する子どもが増えます。

いつ、どこでどのような体制でおはなし会を行うかは、なぜ、おはなし会を行うのかというグループの方針と直接かかわってきます。グループ内でしっかり話し合い、確認しておく必要があります。

* 次号は「その 10 学校でのおはなし会（8）」の予定です。

質問や意見をいただきましたら、お答えしていきたいと思います。（Y）

《4》 行って来ました！

京都市学校歴史博物館で12月13日まで開催されている企画展「むかしむかし あるところにー教材としての昔話ー」に行ってきました。

「学校所蔵の絵画作品にみる昔話」、「明治期昔話の決定版・巖谷小波『日本昔噺』」、「教科書に掲載された昔話」の3つのテーマで、絵画作品、教科書など62点が展示されています。

入口を入ると、京都の小学校や幼稚園などに所蔵されていた屏風や掛け軸などに描かれた昔話を題材にした美しい絵にひきつけられます。地元の住民や画家が学校に寄贈したものだそうです。それを見るだけでも、「桃太郎」や「舌切雀」など、現在でもよく知られている昔話が明治時代からよく知られていたことがわかります。巖谷小波の「桃太郎図」や「浦島太郎図」には俳句も添えられています。

次のコーナーでは小波の編集した『日本昔噺』（博文館、明治27～29年）がずらりと並んでいます。「国民的な昔話として定型化された」「耳で聞いていたものを目に見える形にした」という解説がつけられていました。表紙のカラーパネルの他、挿絵のあるページが展示されていて、昔話のストーリーを思い浮かべながら見ることができました。

教科書のコーナーでは、明治20年から昭和13年の「尋常小学読本」、「修身教本」、「国語読本」などの教科書が、昔話の掲載ページが読めるように展示されています。それぞれの時代に昔話を通して子どもに教育しようとしたことがわかります。

私は「桃太郎」や「浦島太郎」を学校で習った記憶がありませんが、教科書で教えられていたことが驚きでした。昔話は時代によって解釈が異なるので、今の子どもたちにどう伝えるのがよいのかなと思いながら帰りました。（K）

■—————■
【3】全国のイベント紹介

● 子どもと本の集い2016 広松由希子ワークショップ&講演会

日 時：11月26日（土）

場 所：吹田市立中央図書館 3階集会室 （吹田市出口町）

講 師：広松由希子

第1部 午前10時30分～12時30分

ワークショップ「ぼくの わたしの 絵本づくり」

対象：5歳～小学生

定員：15名（申込先着順）

第2部 午後2時～4時

講演会「読む・選ぶ・ともに楽しむ絵本の時間ー新しい絵本を中心にー」

定員：50名（申込先着順）

主 催：吹田市子どもの本連絡会

● 資料展示 宮沢賢治生誕120年記念

「メディアを横断する『賢治』-ガラス絵、絵本、マンガにみる宮沢賢治-

会 期：開催中～12月25日（日） 休館日あり

会 場：大阪府立中央図書館 1階 展示コーナー （東大阪市荒本）

入場料：無料

主 催：大阪府立中央図書館 国際児童文学館 /

大阪府立中央図書館指定管理者 長谷工・大阪協立・TRCグループ

協 力：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

【4】プレゼント

今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『フラダン』を1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガNO.75 プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ(5)このメルマガのご感想をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。

締切は12月12日(月)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

高級料亭ではない、小さな街の小料理屋まで、レストラン格付けに一喜一憂する。星一つでお客殺到、万々歳かと思いきや、閉店するのも珍しくないらしい。料理人の引き抜きもあれば、味（評価）をさらに上げようと、食材と格（値段）を上げたあげく客足が遠のくもあり…。

最近は、「ビブグルマン」と称して安い価格のおすすめ店も紹介されている。そんな裏通りのお店で耳にした、夜の巷で見られる“ミシュラン流星群”のお話…。(A)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまで

お願いします。原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

- このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。
- 配信の登録・解除・変更は、
http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ
- このメールの送信アドレスは配信専用です。
- 記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内
TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp
